

4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1改善を要する

- 1 学校の教育目標「自ら学び、豊かな心とたくましく生き抜く力をもち、ふるさとを愛する児童の育成」
- 2 めざす児童像「自ら進んで学ぶ子」「礼儀正しくやさしい子」「心身ともにたくましい子」
- 3 めざす学校像「落ち着きのある学校」「安心・安全な学校」「美しい学校」
- 4 めざす教師像「分かる授業を行う教師」「人間性豊かな教師」「覇気のある教師」

＜学校経営ビジョン＞ 「みんなで縄瀬小」を合い言葉に、敏感な人権感覚を根底にしながら、児童に対する深い愛情と教育に対する情熱・使命感をもって全力で指導に当たり、児童が「明日の登校を心待ちにする」学校を目指す。

重点目標	具体的目標	方策・手立て	評定	自己評価結果(成果と課題)
1 学力向上 ＜知育＞	1 個に応じた指導・複式指導の充実を図り、「伝え合うこと」と意識しながら、児童が「分かる・できる」授業を目指す。	○ 授業力向上に向けて、校内研究を「伝え合うこと」を意識した授業研究に絞り込み、児童全員が「分かる・できる」授業を目指す。 ○ 朝の活動やぐんぐんタイム、Webの日を有効に活用して学力の定着を図る。	3	○ 全員1回の研究授業を行いワークショップ形式での研究会を行うことで、授業力向上に向けて、教師同士が学び合い高め合うことができた。 △ 個人差の大きい基礎基本の定着、家庭学習の充実、読書習慣については、今後とも個別指導に力を入れていくことで改善を図る必要がある。
	2 読書活動充実に向けての様々な取組を通して読書意欲を高め、読む力の向上を図る。	○ 読み聞かせ(図書館サポートー・すぎのこ俱楽部、教師)の機会を多くもつことで本の楽しさを感じさせる。 ○ 学校図書館やくれよん号の利用を促進し、読書意欲を高める。また、「ファミリーリーチャルカード」を活用し、家庭での読書の推進を図る。		△ 学校での読書活動については充実しているものの、アンケートの結果では、保護者、児童とも評価があまり高くなく、手立ての工夫が必要である。
	3 高崎ブロック小中一貫教育を基盤に各家庭と連携した取組を充実させ、児童の学習習慣の定着を図る。	○ 高崎地区6校で作成した「家庭でつくる8つの習慣」を活用し、家庭学習の習慣化を図る。 ○ 学級担任による家庭学習の見届け・励ましを積み重ねることで、児童の家庭学習への意欲を高める。		○ 「家庭でつくる8つの習慣」を配付し、保護者への協力を依頼することができた。 ○ 高崎地区が小中一貫学力向上の研究を通して、9ヵ年間を見通した授業改善を行うことで、学力向上に取り組んだ。
2 豊かな心の育成 ＜德育＞	1 道徳教育・人権教育・特別支援教育等の授業や取組を通して、人の心の痛みが分かるやさしい心を育む。	○ 道徳の時間の指導方法の工夫・改善を図りながら、学校教育全体を通して、豊かな心の育成を図る。 ○ 高崎地区人権教育研修会に参加し、人権教育に関する講演を通して人権感覚を磨く。 ○ 参観日に道徳の授業を公開することで、授業の充実を目指し、保護者の理解を深める。	3	○ 各地区公民館の方々の月1回のあいさつ運動や読み聞かせボランティア、見守り隊等への感謝集会をもつことで、子どもたちに感謝の気持ちを育むことができた。 ○ 12月の参観日に全校一斉の道徳の授業公開を行い、道徳教育に対する保護者への理解を深めるきっかけとした。
	2 全職員が一貫した常時指導を通して、「元気なあいさつ・返事」のできる児童100%を目指す。	○ 毎朝の校長室前での挨拶指導を通して、気持ちのよい挨拶の仕方を身に付けるとともに、児童一人一人を励ます機会とする。 ○ 「がんばるなわせっこ」を常設することで、意識付けを図る。		△ 每朝の指導や全校朝会での指導等を通して、校内でのあいさつは大変よい。しかし、アンケートの結果は「できている」と答えた児童は90%、保護者は82%であり、100%の達成はできなかった。
	3 いじめ解決・不登校ゼロの100%を目指す。	○ 特別支援教育コーディネーターを中心に、関係機関とも連携しながら、個別の指導計画を立て、個に応じた指導の充実を図る。 ○ 日頃の観察・ふれあいを通して、子どもに寄り添う声かけを行う。 ○ 毎月いじめアンケートや教育相談を実施し、いじめの兆候を見逃さず素早い対応を行う。		○ 個別の指導計画を作成し、関係機関とも連携しながら、特別支援教育の充実を図ることができた。 ○ アンケートの結果から、「楽しい学校生活」の項目が保護者、児童ともA・B評価がほぼ100%であり、概ね満足していたと評価できる。 ○ 毎月のアンケート、教育相談の実施により、子どもたちの悩みに素早く対応し、先手の指導を行なうことができた。 ○ いじめや不登校に対しては、早期発見、早期対応を心がけ、いじめ、不登校防止に取り組んでおり、今年度は目立った事例は発生していない。
3 健康でたくましい 体の育成 ＜体育＞	1 生活リズムの定着に向けて、適切な働きかけを行うことで、全校児童欠席0の日、年間130日を目指す。また、日常的に立腰指導の充実を図り、粘り強い心身を育む。	○ 家庭との連携を図りながら、食に関する指導を柱に生活リズムの定着に向けて指導の工夫を行う。 ○ 2ヶ月に1回の立腰指導の日には体育館で一斉指導を行うことで、定着を図る。 ○ 手洗い・うがいなどの徹底指導を行い、病気の予防に努めさせる。	3	○ 養護教諭を中心にして、「わくわくmy弁当の日」や休業中の「アハハの笑顔で作る朝ごはん作り」「メディアコントロール」を通して、家庭との連携を図ることができた。その一方で、家庭に負担を強いた部分も多かった。 ○ 目標に掲げた欠席ゼロ年間130日をまもなく達成できそうである。 ○ 立腰指導の日の一斉指導や日常指導の充実を図ってきた。児童の意識は高まってきたが、保護者の評価は低い。
	2 児童が主体的に運動に親しみ体力の向上につながるよう、体力向上プランを活用した取組を充実させる。	○ 持久走月間、縄跳び月間を設け、体力を高める。 ○ 毎日の体育の時間に必ず5分間走などを行い、力をつける。 ○ 体力テストを年間2回実施し、その結果と活用を図る。		○ 体力テストの結果、5段階評価のA段階の児童が増加し、D・E児童が減少した。また、2回目の体力テストで記録の向上が見られた。
4 家庭・地域との連携	1 学校便り・ホームページ等を通して、情報を公開するとともに、地域の行事や会議等に積極的に参加する。	○ 戦没者慰霊祭、菅原神社祭り、合同運動会、高崎地区駅伝大会、挨拶運動など、地域の方々との交流を通して、連携を強化する。 ○ オープンスクールを地域にも案内することで、教育活動に興味・関心をもっていただく。 ○ 学校だより、ホームページを充実する。	3	○ 合同運動会、菅原神社夏祭りの灯籠作り、駅伝大会、挨拶運動などを通して、地域の方々とのつながりを強めることができた。 ○ みやざき子ども教育週間(オープンスクール)には、地域の方々を多くお招きし、子どもたちとのふれあい活動を行った。大変有意義な時間となり、高齢者の方々や保育園児には喜ばれる活動となつた。ただ、保護者の参加者が少なく啓発の不足が感じられた。 ○ ホームページを定期的に更新し、たくさんの方々に見ていただくことができた。
	2 学校運営協議会と連携を深めながら、ふるさと教育を充実させ、地域とともにある学校づくりに努める。	○ 学校運営協議会の定期的な開催と学校運営方針をしっかりと伝え協力を依頼することで、ふるさと教育及び学校づくりの充実に努める。		○ 学校運営協議会の理解と協力を得ながら、様々な行事の充実を図ることができた。